

1. 旭川と百間川の流域

(1) 流域の自然と社会

岡山県の三大河川の一つである旭川は、中国山地の朝鍋鷲ヶ山(1,081m)に源を発する流路延長142km、流域面積1,810km²の河川である。その流域形状は南北に細長く上流では中国山地を、中流では吉備高原を刻み込み、下流では岡山平野を形成して児島湾に注いでいる。

流域の土地利用^{※1}は山林等が約80%、水田や畑地等の農地が約15%、宅地等の市街地が約5%で、下流部には、岡山藩の城下町として江戸時代から栄えてきた政令指定都市の岡山市が位置し、この地域の社会・経済・文化の基盤を成している。

山地を構成する岩石は古生代の粘板岩・砂岩チャート・輝緑凝灰岩等が最も多く、中生代の花崗岩質岩・流紋岩質岩石がこれに次ぎ、新生代第三紀～第四紀の安山岩質岩石も最上流部に分布する。

旭川流域における年間の降水量^{※2}は、全国平均が約1,800mmであるのに対し、南部の岡山では1,300mm程度と全国平均の約7割にとどまっている。これに対し、北部の真庭市蒜山(上長田)では冬季に降雪も多いため年間降水量は2,000mmを超えており。

※1: 土地利用は、国土数値情報_平成26年度データより集計

※2: 年間降水量は平成21年～平成30年の10ヶ年平均値

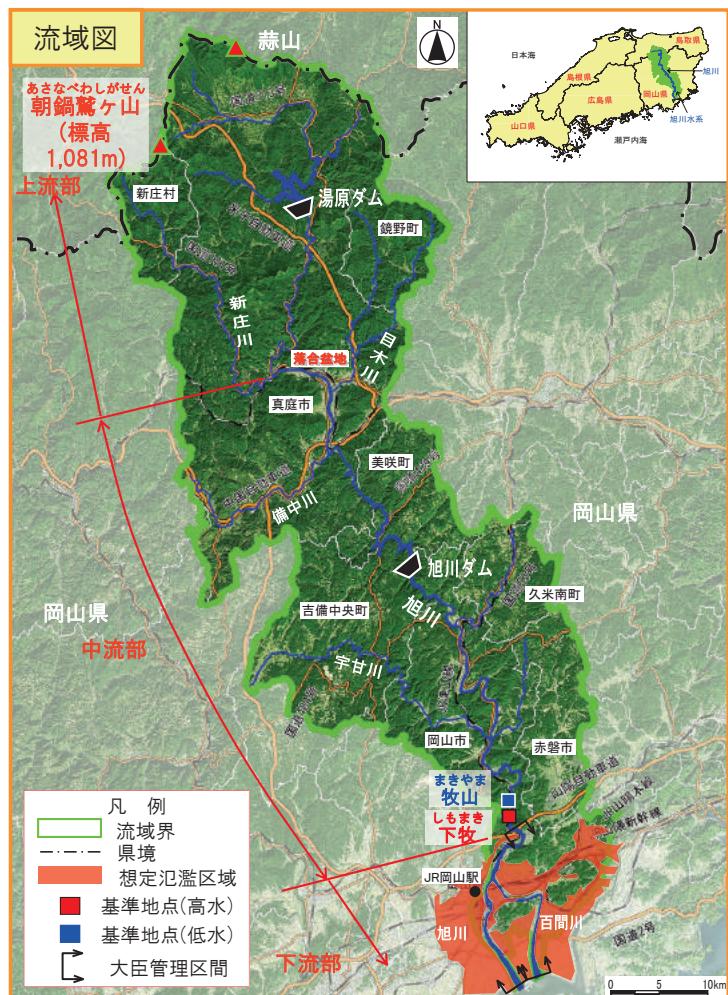
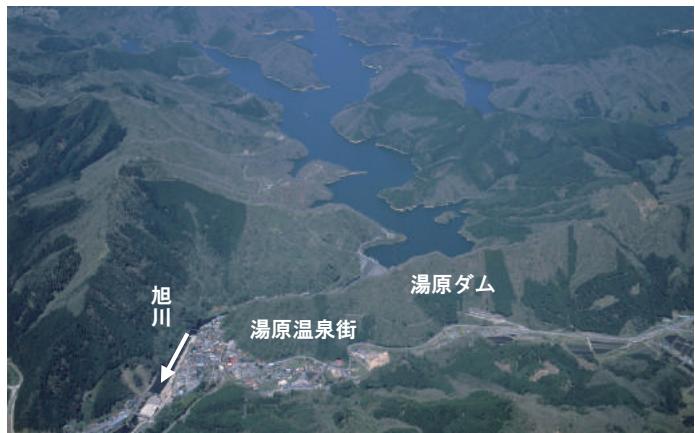


図-1 旭川流域図



旭川上流部(湯原ダム周辺)



旭川中流部(旭川ダム周辺)



旭川下流部(岡山城周辺)



旭川河口部

旭川流域は、岡山市をはじめとする3市4町1村からなり、流域関連市町村人口は約85万人(平成22年国勢調査)である。

旭川は、古くは高瀬舟による水運に利用されていたが、明治以降は陸上交通の発達により、その交通路としての価値は失った。しかし現在では、かんがい用水、発電用水、水道用水、工業用水等に広く利用されている。

旭川の放水路である百間川は、承応3年(1654)の大洪水を契機に、岡山城下を守るため、岡山藩に仕えた熊沢藩山の案をもとに津田永忠が設計・施工したものである。この工事は貞享4年(1687)頃に概成し、その後、幾多の洪水から岡山城下を守ってきた。

また百間川は、オニバスやアユモドキが生息する豊かな自然を育み、平時は水田として耕作されていた。その後、昭和元年からは国の直轄改修工事が開始され、第二次大戦による一時中断後、昭和49年、本格的に改修工事が再開され段階的な整備を経て、平成9年に現在の整備目標に対応した堤防が完成した。

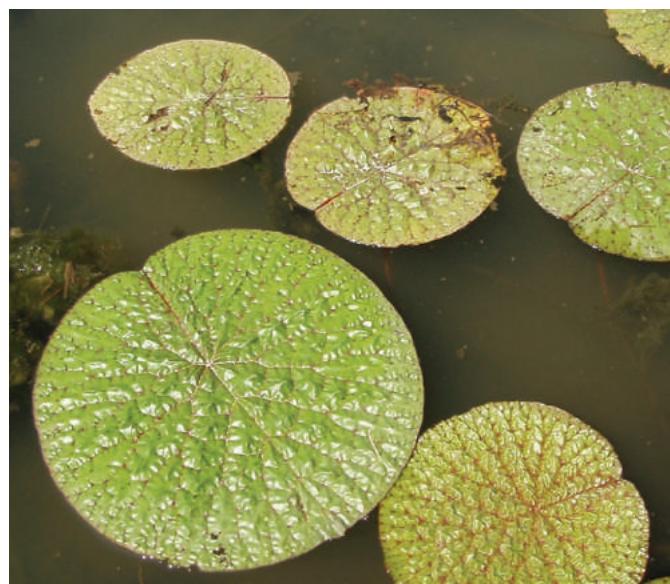
旭川および百間川を抱える岡山平野は、瀬戸中央自動車道、山陽自動車道、中国横断自動車道が交差する交通の要衝であり、また、中国・四国地方における産業・政治・経済・文化の拠点となっていることから、この岡山平野を洪水の危機から守る百間川の役割は大きい。

また、百間川の河川改修とともに、岡山県・岡山市により整備された高水敷は、都市部の貴重な公園、レクリエーション施設として県民の憩いの場を提供している。



高瀬舟

近世の岡山藩の南北物資輸送は、もっぱら河川の水運に依存し、旭川沿川にも多くの川湊が発達した。上流からは米や鉄・木炭・大豆など、川下からは塩や水産物などが運ばれた。



オニバス

スイレン科の一年生の水草で、大きいものは直径2mにも及ぶ浮葉を持つ。



アユモドキ

ドジョウ科、アユモドキ属の淡水魚。分布はびわ湖淀川水系と岡山の三大河川水系に限られ、昭和52年に国の天然記念物に指定された。

(2) 百間川沿岸の古地理と百間川遺跡

旭川は、岡山市北区中原において狭い中流部河谷から岡山平野に出て、古くは数条に分かれて児島湾に注いでいた。中世末期の海岸線は、左岸では操山の東端米田付近に、右岸では南区浜野付近にあった。それ以南は江戸時代に入ってから干拓された人工平野で、旭川の流送土砂によって形成された部分は今の岡山平野全体の概ね3分の1にすぎない。

旭川下流左岸の龍ノ口山と操山にはさまれた旭東平野には数多くの遺跡群が点在している。建設省(当時)が昭和51年以降、岡山県教育委員会に委託して行った発掘調査によれば、旭東平野の集落の立地は縄文時代後期からと推定される。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡は急激に増え、微高地の大半に集落が営まれた可能性が強く、住居跡や水田跡、網の目状の自然流路や用水路の他、多くの遺物が発掘された。

また、米田遺跡では中世(12世紀末から16世紀中頃)の橋跡が見つかり、沢田橋付近に移設して基礎部分が復元展示されている。また、同地には沢田遺跡の竪穴住居の基礎部分も復元展示されている。

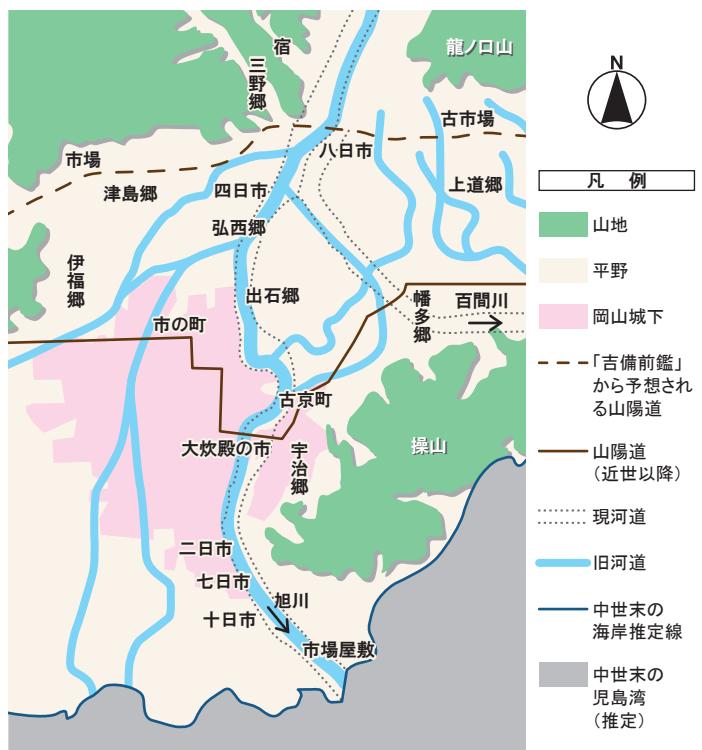


図-2 中世末の海岸推定線と旧河道

(植松岩實「岡山平野の歴史地図」より作成)

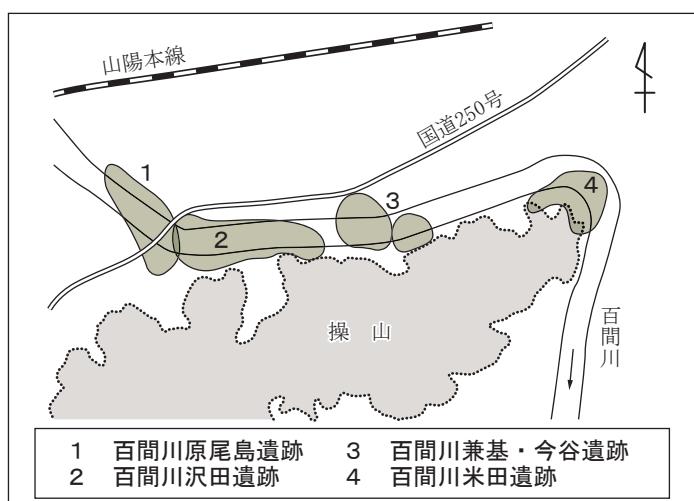


図-3 百間川遺跡群位置図
(おかやま全県統合型GISより作成)



弥生時代のムラ(原尾島遺跡)
岡山県古代吉備文化財センター提供



百間川米田遺跡から出土した橋跡(移設)

百間川緑地(沢田地先:百間川左岸側)



弥生時代前期の壺
(百間川沢田遺跡)
岡山県古代吉備文化財センター提供



百間川沢田遺跡の竪穴住居跡
百間川緑地(沢田地先:百間川左岸側)